

## Ⅲ 財務諸表等

1. 貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	537,339	617,995	△ 80,656
預 金	113,955,981	77,347,389	36,608,592
前払費用	8,062,252	0	8,062,252
流動資産合計	122,555,572	77,965,384	44,590,188
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預 金	67,958,209	67,555,201	403,008
投資有価証券	847,715,471	848,118,479	△ 403,008
差入保証金	84,326,320	84,326,320	0
基本財産合計	1,000,000,000	1,000,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	142,302,137	154,037,789	△ 11,735,652
学術出版・調査研究積立基金資産	151,329,853	151,329,853	0
特定資産合計	293,631,990	305,367,642	△ 11,735,652
(3) その他の固定資産			
設 備	96,852,937	101,096,933	△ 4,243,996
備 品	17,047,795	19,498,801	△ 2,451,006
リース資産	174,114	870,570	△ 696,456
ソフトウェア	985,014	0	985,014
その他の固定資産合計	115,059,860	121,466,304	△ 6,406,444
固定資産合計	1,408,691,850	1,426,833,946	△ 18,142,096
資産合計	1,531,247,422	1,504,799,330	26,448,092

科 目	当年度	前年度	増減
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期リース債務	174,114	696,456	△ 522,342
預り金	3,003,936	2,019,986	983,950
賞与引当金	14,397,000	14,126,667	270,333
流動負債合計	17,575,050	16,843,109	731,941
2. 固定負債			
長期リース債務	0	174,114	△ 174,114
資産除去債務	45,131,804	45,105,096	26,708
退職給付引当金	142,302,137	154,037,789	△ 11,735,652
固定負債合計	187,433,941	199,316,999	△ 11,883,058
負債合計	205,008,991	216,160,108	△ 11,151,117
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	151,329,853	151,329,853	0
(うち特定資産への充当額)	(151,329,853)	(151,329,853)	( 0)
2. 一般正味財産	1,174,908,578	1,137,309,369	37,599,209
(うち基本財産への充当額)	(1,000,000,000)	(1,000,000,000)	( 0)
正味財産合計	1,326,238,431	1,288,639,222	37,599,209
負債及び正味財産合計	1,531,247,422	1,504,799,330	26,448,092

## 2. 正味財産増減計算書

令和 2年 4月 1日～令和 3年 3月 31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
基本財産運用益	4,081,668	5,729,964	△ 1,648,296
特定資産(退職給付引当資産)	694,858	694,852	6
運用益			
受取会費	165,870,000	165,870,000	0
日本証券業協会	127,640,000	127,640,000	0
日本取引所グループ	21,170,000	21,170,000	0
投資信託協会	17,060,000	17,060,000	0
受取研究会等負担金	5,000,000	5,754,802	△ 754,802
日本証券業協会	5,000,000	5,754,802	△ 754,802
受取研究調査費	6,689,436	3,855,252	2,834,184
日本証券業協会	6,550,286	2,057,578	4,492,708
日本投資者保護基金	0	1,178,262	△ 1,178,262
日本取引所グループ	139,150	619,412	△ 480,262
指定正味財産からの振替額	293,733,587	336,410,877	△ 42,677,290
受取一般寄付金	120,000	120,000	0
刊行物収入	1,879,680	2,187,318	△ 307,638
複写料収入	71,520	128,500	△ 56,980
講演会関係収入	360,000	754,000	△ 394,000
流動資産運用収入	2,915	2,785	130
經常収益計	478,503,664	521,508,350	△ 43,004,686

科 目	当年度	前年度	増 減
経常費用			
事業費	372,012,715	389,683,656	△ 17,670,941
役員報酬	24,873,515	29,192,184	△ 4,318,669
給与手当	108,597,282	116,824,529	△ 8,227,247
退職給付費用(役員)	6,221,628	7,487,424	△ 1,265,796
退職給付費用(職員)	8,731,538	7,609,288	1,122,250
福利厚生費	20,514,688	20,729,196	△ 214,508
賃借料	85,509,065	94,068,009	△ 8,558,944
諸謝金	14,868,669	17,520,985	△ 2,652,316
原稿料	6,523,442	5,319,444	1,203,998
図書費	13,606,179	13,658,320	△ 52,141
情報提供整備費	4,111,554	3,761,072	350,482
情報調査費	2,563,157	2,381,447	181,710
什器備品費	1,257,102	502,296	754,806
印刷費	21,847,780	19,151,775	2,696,005
複写費	1,559,921	2,674,678	△ 1,114,757
学会その他会費	1,982,000	2,109,200	△ 127,200
会議費	5,581,206	10,487,426	△ 4,906,220
旅費交通費	677,572	9,698,389	△ 9,020,817
通信運搬費	5,993,002	5,433,111	559,891
設備減価償却費	6,362,960	3,765,412	2,597,548
備品減価償却費	4,514,192	4,383,795	130,397
リース資産減価償却費	574,575	574,576	△ 1
事務機器関係費	298,133	370,846	△ 72,713
消耗品費	915,225	653,451	261,774
修繕費	415,520	130,215	285,305
賞与引当金繰入(役員)	3,570,667	1,498,000	2,072,667
賞与引当金繰入(職員)	19,769,100	9,437,467	10,331,633
雑費	573,043	261,121	311,922
管理費	68,875,236	75,981,655	△7,106,419
役員報酬	11,299,077	12,510,936	△ 1,211,859
給与手当	22,391,949	28,231,006	△ 5,839,057
退職給付費用(役員)	2,666,412	3,208,896	△ 542,484
退職給付費用(職員)	1,180,707	1,371,581	△ 190,874
福利厚生費	6,107,258	6,143,901	△ 36,643
賃借料	12,663,844	14,281,454	△ 1,617,610
諸謝金	896,200	1,387,500	△ 491,300
租税公課	760,680	270,500	490,180
什器備品費	240,834	0	240,834
複写費	98,833	221,773	△ 122,940
学会その他会費	188,000	192,800	△ 4,800
会議費	324,918	608,580	△ 283,662
旅費交通費	127,236	662,672	△ 535,436
通信運搬費	196,874	245,938	△ 49,064

科 目	当年度	前年度	増 減
設備減価償却費	983,036	605,219	377,817
備品減価償却費	762,160	757,010	5,150
リース資産減価償却費	121,881	121,880	1
ソフトウェア減価償却費	20,386	0	20,386
委託費	718,190	694,300	23,890
事務機器関係費	167,002	54,534	112,468
消耗品費	477,760	672,660	△ 194,900
修繕費	159,340	7,500	151,840
賞与引当金繰入(役員)	1,284,000	642,000	642,000
賞与引当金繰入(職員)	4,513,233	2,549,200	1,964,033
雑費	525,426	539,815	△ 14,389
経常費用計	440,887,951	465,665,311	△ 24,777,360
当期経常増減額	37,615,713	55,843,039	△ 18,227,326
経常外増減の部			
備品除却損	16,504	41,052	△ 24,548
雑損失	0	53,319,600	△ 53,319,600
経常外費用計	16,504	53,360,652	△ 53,344,148
当期経常外増減額	△ 16,504	△ 53,360,652	53,344,148
当期一般正味財産増減額	37,599,209	2,482,387	35,116,822
一般正味財産期首残高	1,137,309,369	1,134,826,982	2,482,387
一般正味財産期末残高	1,174,908,578	1,137,309,369	37,599,209
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
増加の部			
受取助成金等	293,733,587	283,091,277	10,642,310
受取助成金	291,282,000	281,336,000	9,946,000
資本市場振興財団	260,652,000	251,006,000	9,646,000
証券保管振替機構	1,000,000	1,000,000	0
日本証券金融	1,200,000	1,200,000	0
日本取引所グループ(大取)	27,530,000	27,530,000	0
金融先物取引業協会	300,000	300,000	0
日本投資顧問業協会	300,000	300,000	0
第二種金融商品取引業協会	300,000	0	300,000
受取特定寄付金	2,000,000	1,500,000	500,000
指定正味財産運用益	451,587	255,277	196,310
減少の部			
一般正味財産への振替額	293,733,587	336,410,877	△ 42,677,290
当期指定正味財産増減額	0	△ 53,319,600	53,319,600
指定正味財産期首残高	151,329,853	204,649,453	△ 53,319,600
指定正味財産期末残高	151,329,853	151,329,853	0
Ⅲ 正味財産期末残高	1,326,238,431	1,288,639,222	37,599,209

## 正味財産増減計算書内訳表

令和 2年 4月 1日～令和 3年 3月 31日

(単位:千円)

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部							
經常増減の部							
經常収益							
基本財産運用益				4,082	4,082		4,082
特定資産(退職給付引当資産)運用益						695	695
受取会費				82,935	82,935	82,935	165,870
日本証券業協会				63,820	63,820	63,820	127,640
日本取引所グループ				10,585	10,585	10,585	21,170
投資信託協会				8,530	8,530	8,530	17,060
受取研究会等負担金				5,000	5,000		5,000
日本証券業協会				5,000	5,000		5,000
受取研究調査費				6,689	6,689		6,689
日本証券業協会				6,550	6,550		6,550
日本取引所グループ				139	139		139
指定正味財産からの振替額				293,734	293,734		293,734
受取一般寄付金				60	60	60	120
刊行物収入				1,880	1,880		1,880
複写料収入				72	72		72
講演会関係収入				360	360		360
流動資産運用収入						3	3
經常収益計	0	0	0	394,811	394,811	83,693	478,504

(注) 1. 特定資産(退職給付引当資産)運用益は法人会計に充当する。

2. 受取会費は50%以上を公益事業、残余を法人会計に充当する。

3. 流動資産運用収入は法人会計に充当する。

4. 記載金額は、千円未満の端数を四捨五入して表示。

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
経常費用							
事業費	259,928	29,967	82,118		372,013		372,013
役員報酬	20,882	3,992	0		24,874		24,874
給与手当	82,964	7,686	17,948		108,597		108,597
退職給付費用	11,909	1,422	1,621		14,953		14,953
福利厚生費	15,353	1,072	4,090		20,515		20,515
賃借料	49,846	0	35,663		85,509		85,509
諸謝金	12,626	2,243	0		14,869		14,869
原稿料	6,023	500	0		6,523		6,523
図書費	2,396	0	11,210		13,606		13,606
印刷費	18,064	3,784	0		21,848		21,848
会議費	840	4,742	0		5,581		5,581
通信運搬費	4,524	1,277	192		5,993		5,993
賞与引当金繰入	17,187	1,756	4,397		23,340		23,340
その他事業費	17,314	1,493	6,997	0	25,805	0	25,805
管理費						68,875	68,875
役員報酬						11,299	11,299
給与手当						22,392	22,392
賃借料						12,664	12,664
その他管理費						22,520	22,520
経常費用計	259,928	29,967	82,118	0	372,013	68,875	440,888
当期経常増減額	△ 259,928	△ 29,967	△ 82,118	394,811	22,798	14,818	37,616
経常外収益計							0
経常外費用計	17	0	0	0	17	0	17
当期経常外増減額	△ 17	0	0	0	△ 17	0	△ 17
当期一般正味財産増減額							37,599
一般正味財産期首残高							1,137,309
一般正味財産期末残高							1,174,909
II 指定正味財産増減の部							
増加の部							
受取助成金等							293,734
受取助成金							291,282
受取特定寄付金							2,000
指定正味財産運用益							452
減少の部							
一般正味財産への振替額							293,734
当期指定正味財産増減額							0
指定正味財産期首残高							151,330
指定正味財産期末残高							151,330
III 正味財産期末残高							1,326,238

(注). 事業費は全額、公益目的事業に係る費用である。

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・償却原価法によっている。

#### (2) 固定資産の減価償却について

##### ① 設備及び備品

法人税法に基づく定額法によっている。

##### ② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

##### ③ ソフトウェア

定額法によっている。なお、自社利用のソフトウェアについては、当研究所における利用可能期間(5年)に基づいている。

#### (3) 引当金の計上基準について

##### ① 賞与引当金

役職員に対する賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

##### ② 退職給付引当金

役職員に対する退職金の支払いに備えるため、期末退職金の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

#### (4) リース取引の処理方法

リース料総額300万円を超える所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

#### (5) 消費税の会計処理

税込方式によっている。



2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
預金	67,555,201	160,403,008	160,000,000	67,958,209
投資有価証券	848,118,479	160,067,392	160,470,400	847,715,471
差入保証金	84,326,320	0	0	84,326,320
小 計	1,000,000,000	320,470,400	320,470,400	1,000,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	154,037,789	17,870,687	29,606,339	142,302,137
学術出版・調査研究積立基金	151,329,853	30,057,710	30,057,710	151,329,853
小 計	305,367,642	47,928,397	59,664,049	293,631,990
合 計	1,305,367,642	368,398,797	380,134,449	1,293,631,990

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
預金	67,958,209	0	67,958,209	0
投資有価証券	847,715,471	0	847,715,471	0
差入保証金	84,326,320	0	84,326,320	0
小 計	1,000,000,000	0	1,000,000,000	0
特定資産				
退職給付引当資産	142,302,137	0	0	142,302,137
学術出版・調査研究積立基金	151,329,853	151,329,853	0	0
小 計	293,631,990	151,329,853	0	142,302,137
合 計	1,293,631,990	151,329,853	1,000,000,000	142,302,137

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
設 備	109,657,228	12,804,291	96,852,937
備 品	38,572,437	21,524,642	17,047,795
リース資産	1,683,102	1,508,988	174,114
ソフトウェア	1,005,400	20,386	985,014
合 計	150,918,167	35,858,307	115,059,860

(注)備品の減価償却累計額は、一括償却資産の償却額を含む。

5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

6. 満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
#310利付国債ほか10銘柄	961,390,000	965,855,000	4,465,000

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替	
受取助成金等の振替額	293,733,587
合 計	293,733,587

8. 関連当事者との取引の内容

該当なし。

9. 資産除去債務

(1) 資産除去債務の概要

事務室、図書館等について不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復義務を有しているため、契約及び法令上の義務に関して資産除去債務を計上している。

(2) 資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りに当たり、使用見込期間は15年、割引率は0.059%を採用している。

(3) 資産除去債務の総額の増減

当期首残高	45,105,096 円
有形固定資産の取得に伴う増加額	0 円
時の経過による調整額	26,708 円
資産除去債務の履行による減少額	0 円
当期末残高	45,131,804 円

10. 重要な後発事象

該当なし。

## 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略する。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	14,126,667	14,397,000	14,126,667	0	14,397,000
退職給付引当金	154,037,789	17,824,789	29,560,441	0	142,302,137

### 3. 財産目録

令和3年3月31日現在

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額(円)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	手元保管	運転資金として	537,339
普通預金	みずほ銀行兜町支店	〃	70,233,902
〃	〃	科学研究事業分担預り金として	605,188
〃	りそな銀行北浜支店	運転資金として	39,556,618
〃	東京証券信用組合	〃	5,516
通常貯金	ゆうちょ銀行(北浜)	〃	1,006,834
振替口座	ゆうちょ銀行(日本橋)	〃	2,547,923
前払費用		事業費等の前払費用額	8,062,252
流動資産合計			122,555,572
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	みずほ銀行兜町支店	公益目的保有財産であり、運用益	65,695,890
定期預金	東京証券信用組合	を公益目的事業共用の財源として	2,262,319
投資有価証券	第61回利付国債ほか	使用している	847,715,471
差入保証金	太陽生命日本橋ビルほか	公益目的保有財産であり、研究室等に使用する借室の保証金である	84,326,320
基本財産合計			1,000,000,000
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	有価証券ほか 第61回利付国債ほか	役職員の退職給付引当金見合の引当資産として管理している	142,302,137
学術出版・調査研究積立基金資産	有価証券ほか 第62回利付国債ほか	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業共用の財源として使用している	151,329,853
特定資産合計			293,631,990

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額(円)
(3) その他の固定資産			
設備	東京・大阪	公益目的事業及び法人管理運営 に使用している	96,852,937
備品	東京・大阪	〃	17,047,795
リース資産	東京	公益目的事業及び法人管理運営 に使用している	174,114
ソフトウェア	東京	法人管理運営に使用している	985,014
その他の固定資産合計			115,059,860
固定資産合計			1,408,691,850
資産合計			1,531,247,422
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期リース債務		複写機リース料	174,114
預り金	源泉所得税	給与等に係る源泉所得税	3,003,936
賞与引当金		役職員に対する賞与の翌期支払い に備えるための引当金である	14,397,000
流動負債合計			17,575,050
2. 固定負債			
長期リース債務		複写機リース料	0
資産除去債務		原状回復義務履行に備えるため の見積撤去・回復費用である	45,131,804
退職給付引当金		役職員に対する退職金の支払い に備えるための引当金である	142,302,137
固定負債合計			187,433,941
負債合計			205,008,991
正味財産合計			1,326,238,431

## 独立監査人の監査報告書

令和3年5月10日

公益財団法人 日本証券経済研究所  
理事長 増井 喜一郎 殿


み お ぎ 監 査 法 人

東京都千代田区

指 定 社 員

業 務 執 行 社 員

公認会計士

渡邊健悟 

### <財務諸表等監査>

#### 監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### <財産目録に対する意見>

##### 財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の令和3年3月31日現在の令和2年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

##### 財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

##### 財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

##### 利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。


以 上




# 監査報告書

令和3年5月17日

公益財団法人 日本証券経済研究所  
理事長 増井喜一郎 殿

監事 加藤 哲夫 

監事 丸山 雅彦 

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの第61期事業年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な議書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、また、みおぎ監査法人から監査の実施状況及びその結果について報告を受け、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

## 2. 監査意見

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上